

# 「シーガー使って今日も快釣」 鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

★ベテラン2人の仕掛け、釣り方を確認してみよう。まず仕掛けは図にありとおり。2人の違いは捨て糸の長さ(10センチの差)だけでほぼ同じ。ハリスは信頼のシーガーグランドマックスF X6号80センチ。外房大原沖に限らず、ほぼこの仕掛けで通用すると2人は口をそろえる。釣り方はまず鈴木さんが強調するのが、ていねいなエサ付けとタナ取り。素早いエサ付けでイワシを弱せないこと。常にオモリで海底の様子(起伏や海底地形)を探りながらタナを取り、オモリを底に着けばなしにしない。女良さんもオモリを浮かせ、一定のペースで仕掛けを上下させてエサをアピールすること。2人とも横流しで仕掛けが払い出すときはあまり入れ替えない。逆に船下に入り込むときはこまめに入れ替えてオマトリを防止することなどだった。



▲まずは中小型から食い始めた  
▲素早く、ていねいなエサ付けが求められる



▲仕掛けが船下に入るときはこまめな入れ替えが必要  
▼底ダチを取りながらオモリを底に着けないでアタリを待つ



▲後半になって食いが立つ。ダブルヒットもあった  
▼女良さん、会心の2.6キロ。ここまでは船中最大だったが



▲お見事。この時期貴重な4キロオーバー

**シーガーPE X8**  
▶150~400m巻き。価格はオープン

**シーガーグランドマックスFX**  
◀ヒラメにおすすめは6~8号。0.3~10号まで19アイテム。各60m巻き。メーカー希望本体価格3200~6000円



「バラシを防ぐのが課題でした」と反省していた。ヒラメシーズンはまだ中盤、次の釣行に闘志を燃やす2人だった。



Challenge #82  
外房大原港出船

## どんな仕掛け、どんな釣り方が寒ヒラメの基本釣法を検証する

鈴木新太郎  
女良圭佑

## 釣れぬは 釣れぬは 釣れぬは



▶鈴木さんがこれまでにない大型を掛け、船中最大大騒動  
▼ハリスは信頼のシーガーグランドマックスFX



◎各地でヒラメがシーズンインとなった。すでに開幕して4カ月がたつ外房大原沖はシーズン中盤戦といったところ。今回はヒラメ釣りのエキスパート鈴木新太郎、女良圭佑の両氏の釣行から、改めてライトヒラメの基本を伝授していただいた。

外房大原沖のヒラメは、目下のところ大原〜太東沖の水深10〜20メートル前後の浅場を狙っている。ヒラメ釣りとしては最も入門に適した時期でもあり、釣り味も十分に楽しめる。

今回はシーズンを通して釣行にいそしむベテランアングラー、鈴木新太郎さん、女良圭佑さんの釣行に密着し、改めてライトヒラメの基本釣法、釣果アップのコツなどを教えていただいた。乗船したのは外房大原港のつる丸。

5時半過ぎに出船し、まずは南下して岩船沖を狙うもアタリなし。船長は北上して太東沖まで船を進めるが、一向に好転する気配がない。風も潮もないせいで、船が流れないからだ。

9時を過ぎてようやく風が吹き始めボツボツと小型のヒラメが顔を出すようになった。これからは勝負だ。

ただし、ていねいにタナを取らないとアタリを逃してしまううえ、たとえ掛かってもしっかり合わせを入れないとバラシに泣くことになる。

いっぴきなくシビアな状況に戸惑う乗船者だが、ベテラン2人はこんなときこそ持てる引き出しを駆使してヒラメを攻略する。

鈴木さんは小型を1枚釣った後にバラしたものの、すぐに2枚目、3枚目と数をのばしていく。一方の女良さんはアタリこそとらえるものの、エサを食い込ませられず、なんと3連続バラシ。4度目のアタリはいっぴきなく慎重なやりとりで、この時点で船中最大の

2.6キロを釣り上げ溜飲を下げた。ここまで数では勝っていた鈴木さんだが、後輩の一発に触発されたようだ。貴重なアタリを見事にとらえ、合わせたとたん大きな引き込み。

腕と体をいっぴきに使った見事なやりとりで海面に浮かせたのは、女良さんのヒラメを大きく上回るサイズ。もちろん当日最大となる、後検量4キロの大ヒラメだった。

その後、女良さんも納竿間に1枚釣れ、11時過ぎに納竿となる。船中では鈴木さんが4枚でトップ、続いて女良さんが3枚で続いた。前半はアタリさえずなく大苦戦を予感したが、終わってみれば好釣果。確実な仕掛け、基本に沿った釣り方で釣り続けた結果であろう。